

中学校区で一体となった生活習慣づくり

★ 時間をコントロールする力、計画を立てて家庭学習に取り組む力の育成 ★

一中校区では、「自分で時間の使い方をコントロールする力」「自分で計画を立てて家庭学習に取り組む力」を伸ばすための取組を行いました。

小学校では書き取り会や計算会に合わせ、中学校では定期テストや習熟度テスト前に計画表を活用して取り組みました。「めあて」「振り返り」を意識させたり、計画についてアドバイスを加えたりすることや、取組過程における担任や保護者、児童生徒同士の確認（コメント）や相互チェックを行ったりしたことで、小学校低学年でも1日90分以上取り組む児童がいたことなど、より充実した取組につながったと思っています。



<家庭学習カード>

家庭学習以外にも、基本的な生活習慣についての保健指導、家読記録カード、睡眠についての講演会などの取組により、自分の生活を見つめ、健康的な生活習慣について考える機会を設けたことは、自分自身の生活を振り返るとともに、改善への取組につながりました。

☆ 成果と今後の取組

児童生徒や保護者、教員からは、自分のペースで計画的に学習することが楽しいと考える児童生徒が増えた、見通しをもって取り組むことのよさを感じている様子が見られた等の評価が感想として寄せられています。今後も、家庭の協力を得ながら意欲化を図り、取組を継続していく力が育つように取り組んでいきます。

★ 自ら学ぶ力を身に付けるために ★

二中校区では、自ら学ぶ力を身に付けることができるように「家庭学習の手引き」を配付したり、自分で計画を立てて家庭学習に向かう取組を進めたりするなど、校区の小中学校が同一歩調で家庭学習の推進に取り組むことにしました。そして、学校によって創意工夫をする余地を残しながら、全ての学校で事前に児童生徒が計画表に家庭学習時間や内容を記入し、日々修正をしながら家庭学習に取り組むことを継続しました。

以下の全国学力・学習状況調査の児童生徒意識調査の結果では、成果が表れてきています。このことは、本年度だけでなく、これまでの継続した取組の成果でもあると思っています。

①家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校 79.3% (昨年度比較+15.4%)、中学校 64.3% (昨年度比較+12.7%)

②学校の授業時間以外に、1日あたり1時間以上勉強をしますか。

小学校 76.9% (昨年度比較+8.0%)、中学校 50.0% (昨年度比較-8.1%)

☆ 成果と今後の取組

全国学力・学習状況調査結果を昨年度の二中校区の数値と比較すると、中学生の家庭学習時間以外については改善しています。このことから、二中校区の児童生徒には、自ら学ぶ力が身に付いてきていると捉えています。自ら学ぶ力を付けることができるように、今後も自分で計画を立てて家庭学習へ向かう取組を進めていきます。

★ 健康な身体と生活を目指して 野菜料理を作ろう・食べよう ★

弥栄中校区では、たくましい心と体をもつ児童生徒の育成を目指し、「たのしい・おいしい・チャレンジ!～もっと元気になる食生活～」に取り組んでいます。今年度は、「野菜料理を作ろう・食べよう」をテーマに、児童生徒が野菜料理について知り、関わることでへの関心や意欲が高まることをねらいとし、次のような取組を行いました。

<パート1>夏休み『家の「野菜」料理に関わろう・食べよう!』

興味・関心を高めるために、夏休みの内5日間、家の野菜料理に関わったり食べたりすることに取り組みました。

<パート2>11月『全校チャレンジ King of Dressing を考えよう!作ろう!』

野菜をおいしく食べるドレッシングを考え、ドレッシング作りに取り組みました。

<パート3>1月『食べて選ぼう! The King of Dressing in YJHS with YES コンテスト』

栄養教諭と連携し、給食にドレッシングサラダとして出してもらいました。児童生徒・教職員が食べた後、投票をしてKingを決定しました。

☆ 成果と今後の取組

生徒のまもめには「野菜料理の大切さがよく分かった」「将来の自炊に役立てたい」などがあり、保護者からも「食品の原材料や成分表を見て、体に良いものを吟味して買い物かごに入れるようになった」などの感想があり、食生活を通して健康な身体や自分の生活を見直すことにつながりました。来年度は「弥栄っ子を育てる会」で作成したパンフレット「未来へつながる食生活」をもとに、新たな課題に取り組んでいきます。

令和5年度を振り返って

表紙にある4つの視点 ①各中学校区で一体となった生活習慣づくり、②学ぶ意欲を高め夢や希望に向かって努力する子どもの育成、③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成、④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成)について、小中連携教育による実践や浜田市教育委員会施策事業、各学校での取組を通して達成を目指しています。目標指標に沿って、今年度の状況を振り返ってみます。下線が今年度値、◎は目標値を、○はスタート値を上回っていることを表しています。目標指標については、「しまねの学力育成推進プラン」との整合性を図った項目としています。併せて、評価対象学年を小学校5年生及び中学校2年生とし、島根県学力調査結果(12月実施)の数値としています。

①各中学校区で一体となった生活習慣づくり

「普段(月～金曜日)、1日あたり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする子どもの割合」の減少。

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 51.3%	中学校2年: 43.8%
令和5年度値	小学校5年: 52.4%	◎中学校2年: 40.6%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 50.0%	中学校2年: 42.0%

「普段(月～金曜日)、1日あたり1時間以上家庭学習をする子どもの割合」の増加。

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 63.5%	中学校2年: 51.4%
令和5年度値	小学校5年: 51.5%	中学校2年: 46.6%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 65.0%	中学校2年: 65.0%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合」の増加。(新項目)

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 65.4%	中学校2年: 62.5%
令和5年度値	小学校5年: 65.1%	◎中学校2年: 63.3%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 70.0%	中学校2年: 70.0%

☆「家で自分で計画を立てて勉強をしている子どもの割合」の増加を重視しています。将来にわたって生きて働く力として必要となるからです。中学校ではスタート値よりも向上しています。これに連動してテレビゲーム時間についても改善しています。

③学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

「将来の夢や目標をもっていると思う子どもの割合」の増加。(項目変更)

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 79.3%	中学校2年: 70.6%
令和5年度値	◎小学校5年: 81.2%	◎中学校2年: 66.4%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 89.3%	中学校2年: 80.6%

「自分には良いところがあると思う子どもの割合」の増加。

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 62.9%	中学校2年: 60.9%
令和5年度値	◎小学校5年: 66.7%	◎中学校2年: 68.9%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 80.0%	中学校2年: 80.0%

☆「自分には良いところがあると思う子どもの割合」については、小中学校ともスタート値を上回りました。夢や目標をもったり自分には良いところがあると思ったりする子を増やしていくために、地域や家庭と共に子どもたちと語り合ったり大人が取り組んでいる姿を見せたりしながら関わって行くことを大切にしたいと考えています。

④ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある子どもの割合」の増加。

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 45.7%	中学校2年: 32.7%
令和5年度値	小学校5年: 40.8%	◎中学校2年: 34.8%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 55.7%	中学校2年: 42.7%

「総合的な学習の時間において、自分で調べ学習に取り組んでいると思う子どもの割合」の増加。

スタート値(令和2年度)	小学校5年: 57.5%	中学校2年: 66.7%
令和5年度値	◎小学校5年: 57.6%	◎中学校2年: 65.5%
目標値(令和7年度)	小学校5年: 67.5%	中学校2年: 76.7%

☆ふるさと教育では、総合的な学習の時間等で身近な題材を課題としながら学習を進めています。地域を題材にした学習では、自分にできることについて考え、学習したことを発信することにも取り組んでいます。引き続き、このような学習を大切にし、地域や社会をよくするために考えることのできる子どもを育てていきたいと考えています。

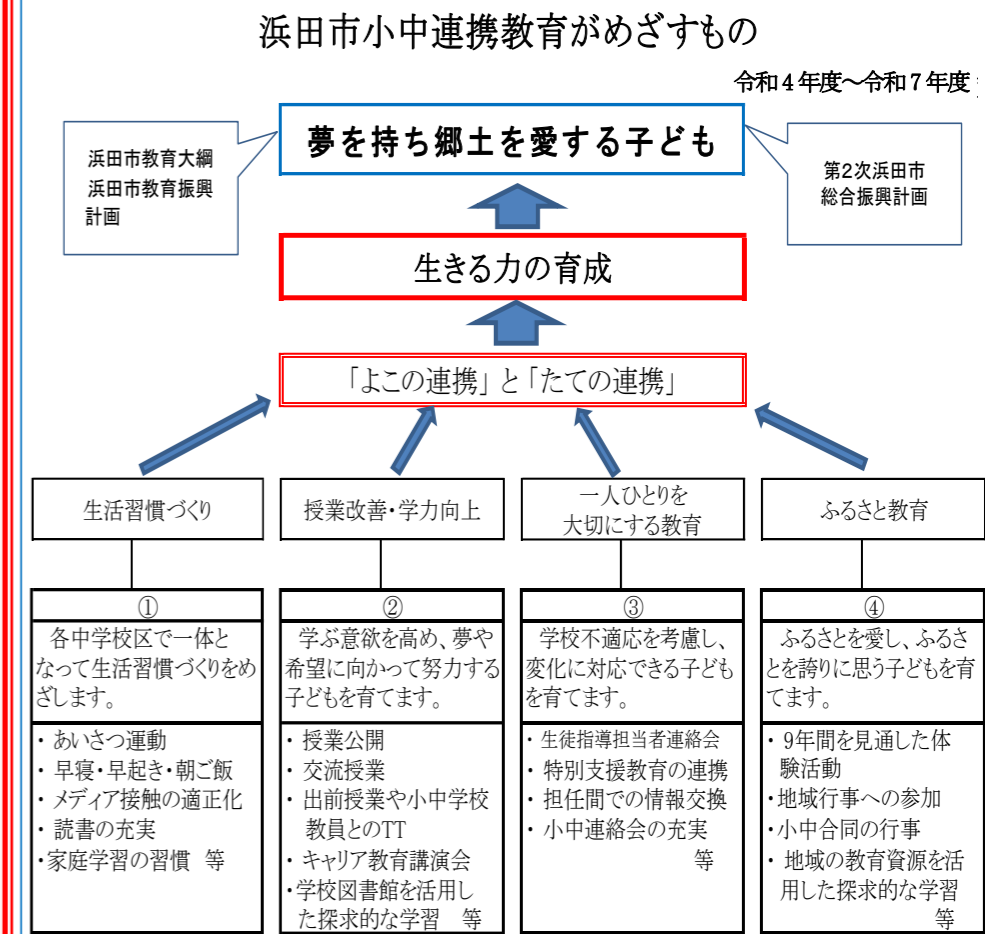
令和5年度

浜田市小中連携教育実践の概要

《浜田市小中連携教育基本方針》

めざす子ども像(浜田市教育振興計画)

夢を持ち郷土を愛する子ども



「浜田市小中連携教育」は、平成21年度に「浜田市小中一貫教育基本方針」を示し、平成22年度から中学校区ごとの取組が始まりました。子どもたちの発達の段階におけるそれぞれの課題に対応するために、幼・小・中一貫した「たての連携」を重視し、前浜田市教育振興計画に掲げられた3つの子ども像「きまりを守り、生活リズムを正しくたくましく生きぬく子」「感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切にする子」「夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子」の具現化に向けて、中学校区単位で「よこの連携」を大切にしながら、それぞれの実態を踏まえ、特色を活かしながら具体的に育てたい指導目標や指導内容を定めて取り組んできました。

平成27年度に第2次浜田市総合振興計画及び浜田市教育大綱が策定され、その理念を実現するために新たな浜田市教育振興計画が策定されました。この機会に、それまでの名称「小中一貫教育」を、「浜田市小中連携教育」とし、浜田市教育振興計画の基本理念に基づき、実践を行うこととしました。今年度は、後期の浜田市教育振興計画に基づいた取組の2年目となりました。これまでの実践の成果と課題を踏まえて、取組の重点を「中学校区で一体となった生活習慣づくり」として取り組んでいます。

保護者の皆様にも、今年度の「浜田市小中連携教育」の各中学校区の取組の様子をご覧いただき、ご理解いただければと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をお願いします。

浜田市教育委員会 教育長 岡田 泰宏

学校不適応を考慮し、変化に対応できる子どもの育成

★ 小学校高学年交流授業「夢授業・志授業」 ★

金城中校区では、小学校3校の児童は、卒業後、ほぼ全員が金城中学校へ進学するため、低学年、中学年、高学年ごとに交流を深める取組を行っています。今回は、小学校高学年交流授業「夢授業・志授業」を紹介します。

1 目的

- 金城中校区の高学年児童が、キャリア教育の視点をもって一緒に活動することを通して、友情の輪を広げるとともに、将来に向けて夢や希望をもつことの大切さを知る。
- 宝物ファイルを作成することを通して、自分には良いところがあることに気づき、自己肯定感を高めるきっかけとする。

2 内容

- 5・6年生共通 宝物ファイルの作成（岩堀美雪先生が考案した自己肯定感と他者受容力を育むツールを活用し、各学級の実態に合わせて作成）
- 5年生 夢授業 浜田商業高等学校生徒5名によるトークセッション（小学校のころの夢、高等学校で学ぶとは、自分の得意なこと不得意なこと等）
- 6年生 志授業 鳥取立志教育プロジェクト実行委員会 松井裕志先生によるワークショップ（10歳以上の子どもたちが「自分の人生は自分で決める」という意思決定のスタートラインに立つための授業）



<5年生 夢授業>



<6年生 志授業>

夢授業、志授業共に80分という長時間であったにもかかわらず、児童は集中して話を聞いたり、グループで意見を出し合ったりして、有意義な時間を過ごすことができました。

★ 今後に向けて

児童の感想から、高学年交流授業の目的は達成できたと捉えています。このような取組を毎年継続して実施することは、児童が中学生になって自分の進路や生き方等を考える際に役立つと思っています。年間計画に位置付け、継続した取組となるようにしていきます。

★ 年間を通じて交流することで、中1ギャップの解消を図る ★

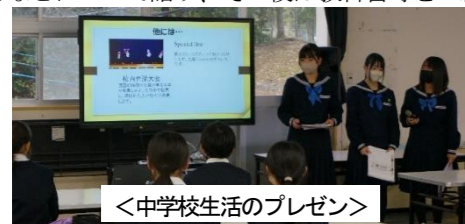
旭中校区では、小学校から中学校への接続における不適応（いわゆる中1ギャップ）の解消に向け、昨年度から年間を通じて小学校6年生との交流を次のように図っています。

1 学期

- 6年生が中学校へ出かけ、学習の様子を見学するとともに、校長先生の話聞くことで、中学校生活への見通しをもつことができました。
- 吹奏楽部が小学校を訪問し（中学校体育連盟のブロック大会開催のため中学校は休業日）、演奏を披露するとともに、休み時間には小学生と一緒に遊びました。

2 学期（中学校で開催）

- 授業体験：英語の授業体験
- 中学校1年生と小学校6年生交流活動
中学校1年生が小学校6年生に中学校での生活の様子、入学前に不安に思っていたことなどについて語り、その後は教科書等を一緒に見ながら交流をしました。



<中学校生活のプレゼン>



<教科書を見ながら交流>

3 学期（中学校で開催）

- 中学校1・2年生が考えたクイズ大会を縦割り班で実施し、交流をしました。

★ 成果と今後の取組

「中学校生活が楽しみになったし、先輩たちが優しく教えてくれると言っていたので、安心して中学校へ入学できそうなのでよかった」との感想からも、交流を通して不安に思っていたことが解消されていることがうかがえます。1学期から交流を図ることで6年生が早い時期に中学校生活への見通しをもつことができるとともに、年間を通じた交流が安心につながるとしています。今後も内容に工夫を加えながら年間を通じた交流を図っていきます。

学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成

★ わかるできる喜びをもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成 ★

三中校区では、学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成を図るために、小学校間、小中学校間の相互授業公開や研究協議を踏まえた授業改善の取組を通して指導者の指導力向上と児童生徒の学力向上を目指しました。このことに関する基本的な方向性は、次のとおりです。

○ 公開授業、研究協議会への参加

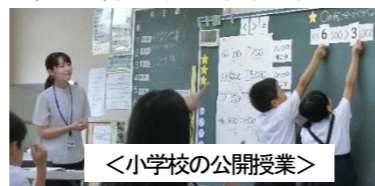
浜田市教育委員会指定校事業（周布小・長浜小：算数授業改善、三中：協調学習）の公開授業（1・2学期に各学校1回ずつ）に積極的に参加

○ 小学校の授業改善の方向性

3つの視点「導入の工夫」「ほめる」「たくさんやらせる」による授業実践

○ 中学校の授業改善の方向性

生徒が自分の考えを他者に伝える力の育成を目指した授業実践



<小学校の公開授業>



<研究協議会における前田教授の指導>

★ 成果と今後の取組

- ・ 授業公開及び研究協議を基に、それぞれの学校の授業づくりに生かすことができました。特に、中学校教員は算数・数学の系統性を意識した授業づくりに生かすことができました。そして小学校教員は中学校に進学するまでに付けておきたい力について意識をした授業づくりに取り組むことができました。
- ・ 環太平洋大学の前田教授の指導助言を受けることで、授業づくりの方向性が確かなものとなりました。また、来年度の三中校区の授業づくりの方向性について、前田教授と各校の管理職とで協議を行い、その方向性を各学校の教職員に周知を図ることができました。
- ・ 来年度は、今年度の小学校の授業改善の3つの視点「導入の工夫」「ほめる」「たくさんやらせる」について、小中学校共に取り組んでいきます

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

★ 児童生徒による地域貢献活動 ★

四中校区では、地域の行事に参加するだけでなく、地域の一員として自分たちにできることはないかという視点に立ち、自分たちで考えた地域貢献に取り組みました。

<小学校>

近くを流れる周布川の川岸にある美川水鳥公園の設営作業に参加したり、校区にある美川苑を訪問したりしました。活動を通して美川地区の環境保全について考え、地域の高齢者を大切にしたいという気持ちを高めました。

<中学校>

閉校の年ということもあり、今まで以上に多くの地域貢献活動に取り組みました。地域の清掃活動、まちづくりセンターや美川苑でのポップスコンサート、美川楽市での米販売、文化祭での野菜の配布（米や野菜は自分たちが育てたもの）、美川地区を会場として開催された浜田市駅伝競走大会でのボランティアとしての活動等です。



<ポップスコンサート開催>



<美川楽市への参加>

★ 成果と今後の課題

児童生徒がより主体的にふるさと美川に関わり、自分達の思いを基に美川をよりよくする「地域貢献のできる子どもの育成」を目指した取組を行いました。このことにより、児童生徒は、これまで以上にふるさとを身近に感じ、ふるさとを大切に思う気持ちを強くもつことができました。

四中の閉校に伴い、今後は小学校が主体となって地域での活動にどのように取り組んでいくのが課題だと考えています。

ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもの育成

★ 小中学校合同の行事で育む ふるさとを愛する心 ★

浜田東中校区では、全国学力・学習状況調査の質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」に肯定的に回答した児童生徒の割合が低い状況にあることを受け、小中学校がそれぞれに行っているふるさと教育を充実させていくことが必要であると考えました。

その取組の一つとして、毎年開催されている浜田東中学校ロードレース大会に、小学生の希望者も参加できることとして、保護者や地域の方の協力を得ながら実施しました。大会を開催する上で配慮した点は、次の三点です。

① 小中連携教育の取組を保護者や地域に発信する

小中学校それぞれの学校日より等を活用して保護者や地域に積極的に発信しました。

② ふるさとの魅力を児童生徒に伝える

開会式では、中学校長あいさつの中で、コース周辺は歴史ある地区であること、下府川沿いを活用した走りやすい地形であること、保護者をはじめ多くの地域住民の協力を得ていることなどを紹介しました。また、大会前後には、児童生徒に対して心身の健康はもとより地域の活性化につながっていることも折に触れて伝えました。

③ 持続可能な大会とするための工夫や配慮

小学生（2kmコース）は、競走を楽しむ児童も、自分のペースでジョギングを楽しむ児童も、だれでも参加できるようにしました。また、小中学校ともに保護者の方にボランティアとして走路員等の役割を担っていただきました。参加者全員への記録一覧表と参加賞、入賞者への賞状も準備しました。



<中学校のロードレース大会に小学生も参加>

<参加した児童生徒の感想>

- ・ 2000メートルを走りました。前から10番目でした。中学生もいました。楽しかったです。（小1）
- ・ 浜田東中学校には、昔の先輩たちがいました。久しぶりに顔あわせすることができてよかったです。（小6）
- ・ しんどくてやめそうになったけど、地域の方の声援でがんばれたので良かったです。（中1）

★ 成果と今後の取組

全国学力・学習状況調査の質問項目「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和4年度【26.9%】から令和5年度【56.3%】へと増加しました。今回のロードレース大会後の取組検証は、島根県学力調査の結果も参考に進めていきたいと考えています。今後も小中学校で連携をさらに深め、ふるさと教育を充実させていきます。

★ 地域の方との関わりを大切にしたいライフキャリアの形成 ★

三隅中校区では、児童生徒の発達の段階に応じるため「In（ふるさとで）」「About（～について）」「For（～のために）」と段階を意識した取組や「私」を主語とした思考や取組を行うために、モデルとなる地域の方との関わりを大切に、ライフキャリアの形成を目指したふるさと教育を推進しています。その際、「よこの連携」を大切にするために、小学校と一緒に活動することで喜びを感じる段階から、探究的な見方や考え方を発展させていくこと、中学校はよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことを目的に企画や運営を行うことを目指しています。

★ 成果の一例としての「西条柿の学習」

「よこの連携」として、三隅小の3年生と岡見小の3・4年生が合同で西条柿の学習に取り組み、探究的な見方や考え方ができるようになることを目指しました。白砂まちづくりセンターの協力により、柿栽培に関する事前学習、見学会、収穫の一連の流れを三隅小と岡見小の児童が合同で学びました。このことにより、地域の魅力を感じるとともに、小学校段階で目指している探究的な見方や考え方を生かした学びに迫ることができたと考えています。

今後も、「In」「About」「For」と段階を意識した取組、「私」を主語とした思考や取組を推進していくことで、個々のライフキャリア形成を目指し、地域と連携をしたふるさと教育に取り組んでいきます。



<西条柿の学習>